２０２３年度　文学部　教育に関する点検・評価報告書

1. 入学者選抜に関する点検・評価（要約版）

文学部のアドミッション・ポリシーは、以下のとおりである。

文学部では、「英語圏あるいは日本や地域の言葉、文学、文化に強い関心を持つ人」「それらを学ぶことを通して人間の営みについて考えを深め、 鋭い感受性、論理的な思考力や柔軟な理解力を持ち、自分の言葉で明快に表現しようとする人」を求めています。（以下略）

入学者選抜について、入試形態ごとに点検・評価を一覧表にすると、以下の通りである。

選抜のタイプ	入学後の学修状況	妥当性
一般	把握資料； 成績表、GPA 推移データ、必修科目への出席状況、教員による出欠状況の情報共有（メールによる） ペーパーによる試験の学力を重視する入試形態なので、学力の推移を追跡することが重要である。日本語・日本文学科の学生に関しては、概して優秀な成績で推移している。	妥当と判断される。
学校推薦型	把握資料； 成績表、GPA 推移データ、必修科目への出席状況、教員による出欠状況の情報共有（メールによる） 出身高校別の各種データなど。	妥当と判断される。
総合型	把握資料； 成績表、GPA 推移データ、必修科目への出席状況、教員による出欠状況の情報共有（メールによる）	妥当と判断される。

【課題と改善】

以上の検証をとおして、2023 年度末までに見出された課題は次のとおりである。

1)現状の入学前課題を質、量ともに発展させて、より効果的に「大学での学修」のための準備となるよう検討を行う。

2)GPA が全学年で導入されるのは 2025 年度である。その時には入学者全員に対する成績等の調査について実施することが可能となる。と同時に、導入予定の「学修ポートフォリオ」と紐づけることで個別指導のさらなる精緻化を図りたい。

3) 一般選抜（一般入試）における記述式の問題の分量と難易度、また「正解」の考え方自体についてなど、なお議論の余地のあるところがある。他学部の考え方とのすり合わせも必須である。

1. 入学者選抜に関する点検・評価　（詳細版）

1-1　入学者選抜について

1-1-1 文学部のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである。

文学部では、「英語圏あるいは日本や地域の言葉、文学、文化に強い関心を持つ人」「それらを学ぶことを通して人間の営みについて考えを深め、鋭い感受性、論理的な思考力や柔軟な理解力を持ち、自分の言葉で明快に表現しようとする人」を求めています。具体的には、次のような学生です。

1. 言語・文学・文化を学ぶための基礎的な日本語力・英語力を身に付けた人
2.論理的な思考力と明快な表現力を持つ人
3.多様なバックグランドを持つ他の学生と協調して勉学・研究を進めることができる人

文学部の入試は、単なる選抜のための選抜ではなく、上記のアドミッション・ポリシーに基づき、言語・文学・文化に関心を持ち、強靭な思考力と表現力を身につけることを目指して学修を進めていける入学者を、多様に受け入れたいとする学部の意思がそこに表現されたものである。

現在の入試制度概要は以下に述べるとおりで、選抜方法が入試種類ごとに大きく異なったものになっているのは、来歴や入学時の学力が様々であっても、文学部で勉強していければ必ず成果を上げ、自らの未来を切り開いていけるという学生の可能性を信じて、意図的にそうしているものである。また、学部全体として大所から見れば、このようにして学生の多様性を維持することは、学生の協調性・社会性の涵養に役立ち、学修の効果を上げるとともに、将来の社会人としての資質を育むという利点もある。

なお、面接や小論文を課すものについては、すべて複数の教員によってチェックを行い、かつ、予め採点基準を決めてあって、恣意的な評価が入る余地がないようにしている。

1-1-2 選抜方法

① 総合型選抜（未来デザイン入試）Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期

アドミッション・ポリシーのうち、「3.多様なバックグランドを持つ他の学生と協調して勉学・研究を進めることができる人」という点に最も強く関連している。

選考方法は、「未来目標シート」、600 字程度の事前提出型「小論文」、複数の面接官による「面接」そして点数化した調査書によっている。なお、「面接」は対面型とオンライン型のうちから受験生が選択できるようになっていて、病気その他の理由で試験当日来校できない受験生に配慮している（学校推薦型選抜も同様の配慮を行っている。）。

受験生の「学力の 3 要素」を公正にみるべく、面接では小論文の内容にかかわる「知識」についての質問を設けている。

合否判定は学部入試委員会において原案を作成し、最終的には教授会において決定する。

募集人員は両学科合わせて 12 名。

② 学校推薦型選抜Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期

アドミッション・ポリシーのうち、「1.言語・文学・文化を学ぶための基礎的な日本語力・英語力を身に付けた人」及び「2.論理的な思考力と明快な表現力を持つ人」に強く関連している。公募制推薦と指定校制推薦とに別れる。過年度の卒業生、すなわち俗にいう「一浪」までを受験可能としているのが、本学の特色である。小論文 800 字程度を事前提出させるほか、調査書を数値化して合否判定に利用する。

面接は複数の教員によって行い、かつ、予め採点基準を決めてあって、恣意的な評価が入る余地がないようにしているのは同じである。面接者からの面接結果を受けて、小論文の得点、数値化した調査書と合算し、これによって合否を判定する。

総合型選抜（未来デザイン入試）と同様、受験生の「学力の 3 要素」を公正にみるべく、面接では小論文の内容にかかわる「知識」についての質問を設けている。

合否判定は学部入試委員会において原案を作成し、最終的には教授会において決定する。

募集人員は両学科合わせて 40 名。

③ 一般選抜（一般入試）Ⅰ期、Ⅱ期

この入試形態では、ペーパーテストの点数および数値化された調査書によって合否判定する。アドミッション・ポリシーのうち、「1.言語・文学・文化を学ぶための基礎的な日本

語力・英語力を身に付けた人」及び「2.論理的な思考力と明快な表現力を持つ人」に強く関連している。

本学の入試問題は、「英語」はごく標準的な問題で、「基礎的な英語力」を問う。記号で答える設問とともに「記述式」もあり、学力をバランスよく見ている。「国語」の問題では、従来から記述式の設問が必ず一題以上あり、受験生の表現力を見ようとしている。また、単純な二者択一などは避け、むしろ複数の正解を積極的に認める出題と採点基準とすることで、「論理的な思考力と明快な表現力」を試している。

合否判定は学部入試委員会において原案を作成し、最終的には教授会において決定する。

募集人員は両学科合わせて 28 名。

④ 一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）A 日程、B 日程およびC 日程

C 日程が 3 月のかなり遅い時期に設定されているのが特徴の一つである。共通テストの点数をセンターより受信し、その点数と数値化された調査書とで合否を判定する。アドミッション・ポリシーのうち、「1　言語・文学・文化を学ぶための基礎的な日本語力・英語力を身に付けた人」に強く関連している。

文学部において受験科目は英語と国語に加え選択科目一つの合計 3 科目だが、点数配分は英語・英米文学科が英語 200 点（リーディング 100 点、リスニング 100 点）・国語（近代以降の文章）100 点・選択科目 100 点、それに調査書 20 点の合計 420 点満点であるのに対し、日本語・日本文学科は英語 200 点（リーディング 160 点、リスニング 40 点）・国語 200 点（近代以降の文章と古典）・選択科目 100 点、調査書 20 点の合計 520 点満点であるところが異なる。

合否判定は学部入試委員会において原案を作成し、最終的には教授会において決定する。

募集人員は両学科合わせて 20 名（C 日程の「若干名」除く）。

1-2 選抜の結果と点検・評価

1-2-1　GPA 上位者と入試形態

GPA データがある 2022 年度および 2023 年度入学生をもとに、GPA 上位者がどの入試形態で入学したかについて見てみる。

・2022 年度入学した英語・英米文学科学生の 2 年間全体 GPA 上位 10 名（学科全体 31 名）に関して、

総合型選抜	0 名
学校推薦型選抜	6 名
一般選抜（一般入試）	1 名
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	3 名

・2022 年度入学した日本語・日本文学科学生の 2 年間全体 GPA 上位 13 名（学科全体 39 名）に関して、

総合型選抜　0 名
学校推薦型選抜　2 名
一般選抜（一般入試）　4 名
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）7 名

・2023 年度入学した英語・英米文学科学生の 1 年次年間 GPA 上位 8 名（学科全体 26 名）に関して、

総合型選抜　1 名
学校推薦型選抜　5 名
一般選抜（一般入試）　1 名
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）1 名

・2023 年度入学した日本語・日本文学科学生の 1 年次年間 GPA 上位 15 名（学科全体 46 名）に関して、

総合型選抜　1 名
学校推薦型選抜　5 名
一般選抜（一般入試）　4 名
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）5 名

1-2-2　点検・評価

GPA 上位者がどの入試形態で入学したかについて、英語・英米文学科は目立った傾向が見られないものの、日本語・日本文学科は一般選抜（一般入試）および一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）ルートが特徴的であることが分かる。

総合型選抜ルートに GPA 上位者が稀な理由は、そもそも他の入試形態に比べてこのルートで入学する学生数が少ないことによるだろう。しかし他方で、2023 年度英語・英米文学科では 6 名が総合型選抜で入学している点（学科全体は 26 名入学）を思料すると、やや学力不足の学生がこの入試形態に集まったとも考えられるかもしれない。以下の表は、入試形態別の平均 GPA を高い順から並べたものである。

2023 年度入学した英語・英米文学科学生の 2 年間全体、平均 GPA（入試形態別）

	平均 GPA
学校推薦型選抜	2.70
一般選抜（一般入試）	2.62
一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）	2.53
総合型選抜	2.15

いずれにせよ、入学前課題からはじめて、四年間「育てる」体制の一層の強化が必要である。

1-3 まとめと課題

1-3-1　選抜方法について

文学部の入学試験は、アドミッション・ポリシーに合致した学生を総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜（一般入試）および一般選抜（大学入学共通テスト利用入試）によって見極め、合否の判定を公正に行っている。「小論文」では思考力と表現力を見ようとし、「一般選抜」の学科試験では「国語」と「英語」の能力を重視している。

1-3-2　入学前課題への取り組み

合格した受験生には入学まで最低でも 3 回にわたって入学前課題を課している。その内容は高校在学中に身につけてほしい基礎知識とともに、やや分量のある評論文を理解した上で小論文を作成することまでを含む。その都度、担当教員が添削し、場合によってはコメントや「考え方」「解説」を付けて受験生に返却している。また、入学後の課題返却となる小論文のケースでは、個別に指導しつつ学修上の助言を行っている。

1-3-3　学修支援への取り組み

入学後日々の学修、生活上の問題などについて、広く相談できる窓口として、「学年担任制」を取っている。これは、他学部でいうチューター制と実質、全く同じものだが、長い歴史のある文学部では、歴史的な呼称をそのまま使っている。

また、これとは別に、各教員は毎週、少なくとも 90 分以上、学生が予約（アポ）なしで教員の研究室を訪れることのできる時間をあらかじめ設けている。この時間、教員は予約のあるなしに関わらず必ず在室する。文学部ではこれをオフィスアワーOffice hours と呼称している。

さらに、多くの教員が少なくとも一つ以上のメールアドレスを公開しており、様々な事情で登校できない場合でも、相談できる体制を整えている。現に、レポートの出し忘れや期日の間違い、卒論執筆の際の不手際など、様々な危険を、このシステムによって回避できている。

また、2021 年度からは、Microsoft Teams の導入に伴い、Teams 上でレポートの提出や出席確認などができるようになっている。なお、一部の教員では、これに加えて、Teams の「課題」や「reflect」「insight」などを利用した学修支援体制が取られているが、文学部の全ての教員がそうであるとまでは言えない。

1-3-4 評価

入学後の学修を考えれば、当然ながら英語・英米文学科ではおもに英語、日本語・日本文学科では日本語の運用能力を重視した入学者選抜を行われなければならない。その上で、文学部の入学試験は論理的な思考力や協働性の有無を見ようとしている。

試験問題の作成については、毎年度、他大学の「小論文」「英語」あるいは「国語」の出題傾向を具に検討しながら、細心の注意を払って複数の教員で行っている。

高等学校の学びからスムーズに大学のそれへと移行できるよう、入学前課題を受験生に課している。学科ごとに違う課題もあれば、共通の課題（小論文）もあり、提出が遅れている受験生にはアドミッションセンターを経由して、本人に提出を催促している。

入学後の学修支援については、学年担当者がおもに個別の指導を受けもっている。個人情報に配慮しつつ、少なくとも学科全体で、特別な支援が必要な学生に対して共通の情報を持つようにしている。

1-3-5 課題と改善

以上の検証をとおして、2023 年度末までに見出された課題は次のとおりである。

1)現状の入学前課題を質、量ともに発展させて、より効果的に「大学での学修」のための準備となるよう検討を行う。

2)GPA が全学年で導入されるのは 2025 年度である。その時には入学者全員に対する成績等の調査について実施することが可能となる。と同時に、導入予定の「学修ポートフォリオ」と紐づけることで個別指導のさらなる精緻化を図りたい。

3) 一般選抜（一般入試）における記述式の問題の分量と難易度、また「正解」の考え方自体についてなど、なお議論の余地のあるところがある。他学部の考え方とのすり合わせも必須である。

2　教育課程・カリキュラムに関する点検・評価（要約版）

文学部のカリキュラム・ポリシーは、以下のとおりである。

> 英語圏あるいは日本または地域の言葉・文学・文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことによって論理的な思考力と高度な表現力を身につけた人材を育成するために、基礎科目、一般教育科目、外国語、専門教育科目を各学年にバランスよく配置し、順次性のある体系的カリキュラムを編成しています。様々な学生のニーズに的確に応えるため、柔軟で自由度の高い組み立てになっており、教職・学芸員・社会教育主事・日本語教員などの資格取得に関する科目も幅広く設置しています。
>
> （2023 年度以前のカリキュラム・ポリシー）

2018 年度から新カリキュラムに移行し、2021 年度末（2022 年 3 月）に完成した。現行カリキュラムの要点は以下のとおりであるが、カリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーに即しており、適切である。

1．全ての講義演習等において、可能な限り少人数教育を守ること。
　これは、カリキュラム・ポリシーにいう「論理的な思考力と高度な表現力を身につけた人材を育成する」ために必須の条件である。

2．基礎的な科目から高度な科目まで、体系的に組み立てられていること。
　このために科目ナンバリング、カリキュラム・ツリーを明示し、適切な学修を支援している。これは、カリキュラム・ポリシーにいう「順次性のある体系的カリキュラム」を実現するためである。柔軟性の高いカリキュラムになっているのが文学部の特徴である。

3．高校の学習との接続に十分留意すること。
　このために「基礎科目」というカテゴリーを新たに設け、学生によっては入学時に必ずしも十分とは言えない基礎学力を補うべく対応している。

【課題と改善】

2023 年度末までの検証をとおして見出された課題は次のとおりである。

1）2025 年度には全学生の GPA が管理される予定で、個別指導をより効率よく行うことができるだろう。現時点では、GPA が算出される学生に対してのみ活用している。

2）カリキュラムに対して、学生の学修時間が不足している場合がある。特に予習復習の時間が少なめに見える場合がある。

3）卒業論文以外の、卒業時の学力（達成度）を測る指標が曖昧なので、卒業試験など、厳格化をカリキュラム上で検討する必要がある。

2　教育課程・カリキュラムに関する点検・評価（詳細版）

2-1 カリキュラム・ポリシーと教育課程・カリキュラムについて

英語圏あるいは日本または地域の言葉・文学・文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことによって論理的な思考力と高度な表現力を身につけた人材を育成するために、基礎科目、一般教育科目、外国語、専門教育科目を各学年にバランスよく配置し、順次性のある体系的カリキュラムを編成しています。様々な学生のニーズに的確に応えるため、柔軟で自由度の高い組み立てになっており、教職・学芸員・社会教育主事・日本語教員などの資格取得に関する科目も幅広く設置しています。

（2023 年度以前のカリキュラム・ポリシー）

弘前学院大学では、全学における教育の基本的な方針として「少人数教育」と「オーダーメード教育」のふたつを掲げている。文学部のカリキュラム内容は、全てこれを前提として組み立てられている。

現行のカリキュラム（2018 年度カリキュラム）の内容および特徴的な部分は、以下の通りである。なお、資料として現カリキュラムを策定した「カリキュラム検討委員会」の資料を添付する。

「少人数教育」と「オーダーメード教育」の観点から、あくまでも基本は少人数、双方向の授業で、特に少人数による「演習」の形態を重視し、多数設置している。現状で学生側から見て受け身中心となる講義が絶無とまでは言えないが、後掲のカリキュラム・ツリー、またカリキュラム・マップを見ても、少人数が基本であることは一目瞭然である。

例えば、専任教員が担当する科目の場合、文学部では受講生がごく少数でも開講し、単位を修得させる。実際に、少人数で開講されている科目も多い。

2-2 カリキュラムの編成と授業科目の配置

2-2-1 現在のカリキュラムに至る経緯

文学部のカリキュラムは、2018 年度に一新した。このカリキュラムに至った経緯、背景、理由は、以下の通りである。

文学部では、数年に一度の割合でカリキュラムの大幅な見直しをしている。その際には、「カリキュラム検討委員会」が組織されるが、この委員会は学部長からも学科からも

独立して、場合によっては学科再編まで提案できるという権限を持っている。この委員会の設置について定めた明文規定は無く、実際に学科再編まで踏み込んで提案された例も過去にないが、委員会の提言範囲に制限を設けないというのは、文学部の過去五十年間の歴史において形作られてきた伝統であり、2018 年カリキュラムの検討が始まった時にも、当然のように踏襲された。

その 2018 年カリキュラム検討委員会における問題意識は、大略、以下のようなものであった。

1）外的環境の変化

社会の大きな変化が非常に短いスパンで起こる現代において、学問の府である大学もまた、時代や社会のありように合わせた変革を求められている。（例；「学習成果（アウトカム）重視」）

2）18 歳人口減と入学者数

2024 年には東北地区における 18 歳人口の減少率の予測は 2013 年比－24.8%（全国平均－13.6%）である。青森県の 18 歳人口は同年 10,020 人と見られる。学生募集の点で文学部は苦戦を強いられている。とりわけ、英語・英米文学科は 2015 年に 20 名を下回っており再浮揚が強く望まれる。

このような問題意識に基づき、作成したものが、現行の 2018 カリキュラムである。

その後、2021 年 5 月、学長の指示により「文学部改革検討委員会」が立ち上げられ、その中でカリキュラム刷新を含んだコース制についての議論が始まった。そして 2023 年秋に 1 学科 3 コースの構想を「最終答申」として行った。

2-2-2　カリキュラム編成の特色

文学部のカリキュラム・ポリシーは、以下のとおりである（再掲載）。

英語圏あるいは日本または地域の言葉・文学・文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことによって論理的な思考力と高度な表現力を身につけた人材を育成するために、基礎科目、一般教育科目、外国語、専門教育科目を各学年にバランスよく配置し、順次性のある体系的カリキュラムを編成しています。様々な学生のニーズに的確に応えるため、柔軟で自由度の高い組み立てになっており、教職・学芸員・社会教育主事・日本語教員などの資格取得に関する科目も幅広く設置しています。

（2023 年度以前のカリキュラム・ポリシー）

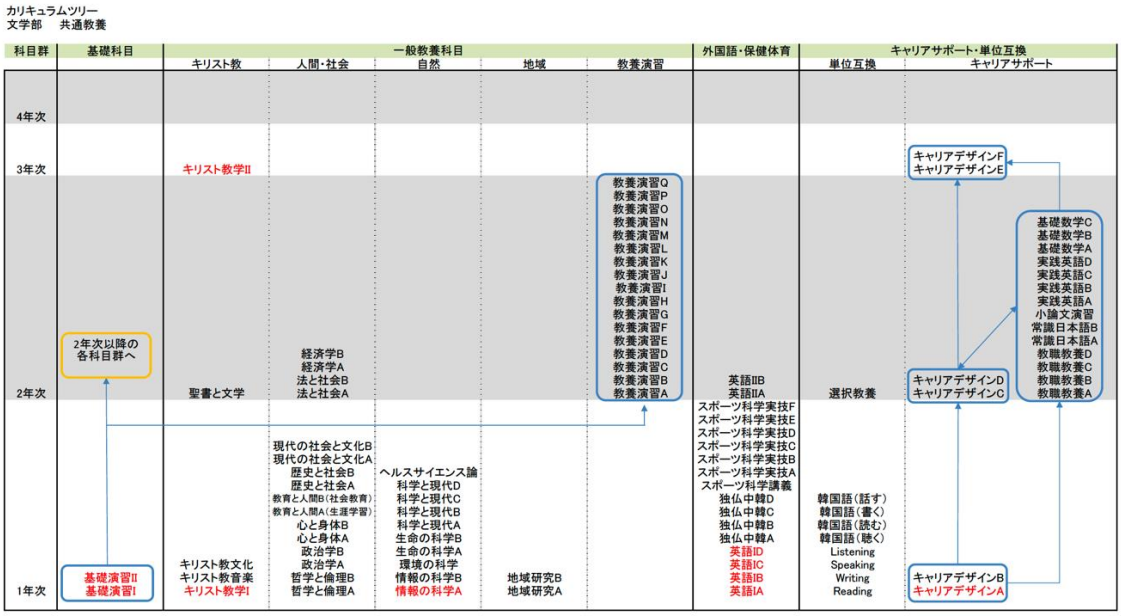
また、ディプロマ・ポリシーは以下のとおりである。

文学部 基礎科目 4 単位、一般教育科目 28 単位、外国語・保健体育 10 単位、

専門教育科目 72 単位、キャリアサポート科目・単位互換科目 14 単位の計 128 単位を修得し、論理的な思考力と高度な表現力によって、個人の生活や社会における問題を柔軟に解決していく能力を身につけた学 生に学位を授与します。

これによって成立したカリキュラムを、次に一覧として示す。

2-2-2-1 まず、共通教養については以下のカリキュラ・ムツリーのとおりである。



2018 年度から現カリキュラムに移行し、2021 年度末（2022 年 3 月）に完成した。（ただし、休学中のもの、留年中のものもいるので、旧カリキュラムが完全に消滅したというわけではない）

現在のカリキュラムの要点を、カリキュラム・ポリシーに即し、ディプロマ・ポリシー達成のためという観点から整理すると、以下のとおりである。

弘前学院大学文学部は、計 128 単位以上を修得し、卒業論文を提出することで、学位取得が可能となる。この単位数に応じた科目は、カリキュラム・ポリシーを基に設定され、ディプロマ・ポリシーを実現するために設定されている。現行のカリキュラムでは特に、アクティヴ・ラーニングの要素をバランス良く取り入れることを目指している。

2-2-2-2 英語・英米文学科及および日本語・日本文学科に共通する方針

1） 大学における学びに必要な基礎を養うために、アクティヴ・ラーニングを中心とする必修科目である「基礎科目」を設定する。

2) 建学の精神に基づいた幅広い教養と人間性を身につけるために、「キリスト教」「人間・社会」「自然」「地域」についての 4 分野から成る選択必修科目を「一般教育科目」として設定する。

3) 単に幅広い内容を学ぶのみならず、特定のテーマについてより深く学ぶための選択必修科目である「教養演習」を設定する。

4) 学びの幅を広げるために、必修科目である英語と、選択必修科目である英語以外の言語を「外国語科目」として設定する。

5)一般的な知識のみならず、運動や健康についての知識の獲得とその実践のために、スポーツの実技および講義を「保健体育科目」として設定する。

6)学びの多様性を担保するため、国内外の大学との単位互換科目を設定する。

7) 現代社会への理解を深めることを通して、将来のビジョンを描き、自らの将来に対する準備 を進めるための系統だった科目を「キャリアサポート科目」として設定する。

2-2-2-3 各学科に固有のことは、以下のようにまとめられる。

まず、英語英米文学科のカリキュラム・マップを以下に示す。

文学部　英語・英米文学科　　カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	
	1.キリスト教主義に基づく見学の精神を理解し、また自身の専門のみにとらわれない多様な知識や言語を学ぶことで、広い範囲にわたる理解力を持ち、日々、移り変わる新しい状況に対応できる。(文学部共通)
	2.キャリアに関する基礎知識及び自身のキャリアに関連する知識を身に付けることで、自ら目標を定め、その達成に向けて行動できる。(文学部共通)
	3.実践でのコミュニケーションを行うための基礎的な知識や技術を学ぶことにより、英語を用いた学び や多様性のある社会へ貢献することができる。(英語・英米文学科固有)
	4.英語及び欧米の文学・文化について専門的に学ぶことを通じて、論理的な思考を身につけ、そうした思考に基づく柔軟な思考によって多様性のある社会に貢献できる。(英語・英米文学科固有)

科目区分	目標	区分	1年 前期 科目名	単位	時間	必選	1年 後期 科目名	単位	時間	必選	2年 前期 科目名	単位	時間	必選	2年 後期 科目名	単位	時間	必選	3年 前期 科目名	単位	時間	必選	3年 後期 科目名	単位	時間	必選	4年 前期 科目名	単位	時間	必選	4年 後期 科目名	単位	時間	必選
基礎科目	大学の学びの基礎をつくる。	基礎演習	基礎演習Ⅰ	2	2	必修	基礎演習Ⅱ	2	2	必修																								
一般教育科目	建学の精神への理解を深め、専門のみにとらわれない幅広い知識を身につけ、日々移り変わる新しい状況に対応する能力を養う。DP1	キリスト教についての科目	キリスト教学Ⅰ	2	2	必選	キリスト教思索 キリスト教文化	2 2	2 2						聖書と文学	2	2						キリスト教学Ⅱ	2	2	必修							
		人間・社会についての科目	哲学と倫理入門 政治学A 心と身体A 教育と人間A(生涯学習) 歴史と社会A 現代の社会と文化A 情報の科学A 生命の科学A 科学と現代A 科学と現代C 科学と現代D	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択必修 選必	哲学と倫理B 政治学B 心と身体B 教育と人間B(社会教育) 歴史と社会B 現代の社会と文化B 情報の科学B 生命の科学B 科学と現代B 環境の科学 ヘルスサイエンス論	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択必修 選必	法と社会A(日本国憲法を含む) 経済学A	2 2	2 2	選必	法と社会B 経済学B	2 2	2 2	選必																
		地域についての科目	地域研究A	2	2	選必	地域研究B	2	2	選必																								
		教養演習									教養演習A 教養演習C 教養演習E 教養演習I 教養演習K 教養演習L 教養演習M 教養演習O 教養演習Q	2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択必修	教養演習B 教養演習D 教養演習F 教養演習G 教養演習H 教養演習J 教養演習N 教養演習P	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	選択必修												
外国語科目	DP1,2,3,4	英語	英語ⅠA 英語ⅠB	1 1	2 2	必修 必修	英語ⅠC 英語ⅠD	1 1	2 2	必修 必修	英語ⅡA	1	2	必修	英語ⅡB	1	2																	
		第2外国語	ドイツ語A ドイツ語B フランス語A フランス語B 中国語A 中国語B 韓国語A 韓国語B	1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2	選必 選必 選必 選必	ドイツ語C ドイツ語D フランス語C フランス語D 中国語C 中国語D 韓国語C 韓国語D	1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2	選必 選必 選必 選必																								
健康教育科目	健康や運動についての知識や能力を養う。	講義	スポーツ科学講義	2	2																													
		実技	スポーツ科学実技A スポーツ科学実技B スポーツ科学実技C	1 1 1	2 2 2		スポーツ科学実技D スポーツ科学実技E スポーツ科学実技F	1 1 1	2 2 2																										
キャリアサポート・単位互換科目	キャリアに関する知識を身につけ、将来の目標達成に向け行動できる力をつける。DP2	キャリアサポート科目	キャリアデザインA	1	1	必修	キャリアデザインB	2	2		キャリアデザインC 教職教養A 教職教養C 実践日本語A 実践日本語B 小論文演習 英語英語A(TOEIC) 英語英語C(TOEIC) 基礎数学A(SPI) 基礎数学C(SPI) 選択教養A 選択教養C 選択教養E 選択教養G	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		キャリアデザインD 教職教養B 教職教養D 実践日本語C 実践日本語D 小論文演習 英語英語B(TOEIC) 英語英語D(TOEIC) 基礎数学B(数学検定) 選択教養B 選択教養F 選択教養H	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		キャリアデザインE	2	2		キャリアデザインF	2	2										
	国内外の大学との協力の下、学びの幅と視野を広げる。 DP4	単位互換科目	Listening ⅠA Listening ⅠB Reading ⅠA Reading ⅠB 韓国語(聴く)ⅠA 韓国語(聴く)ⅠB 韓国語(聴く)ⅠC	2 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1		Reading ⅠA Reading ⅠB Reading ⅠC 韓国語(読む)ⅠA 韓国語(読む)ⅠB 韓国語(読む)ⅠC	2 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1		Writing ⅠA Writing ⅠB Writing ⅠC 韓国語(書く)ⅠA 韓国語(書く)ⅠB 韓国語(書く)ⅠC	2 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1		Speaking ⅠA Speaking ⅠB Speaking ⅠC 韓国語(話す)ⅠA 韓国語(話す)ⅠB 韓国語(話す)ⅠC	2 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1		Listening ⅡA Listening ⅡB Reading ⅡA Reading ⅡB 韓国語(聴く)ⅡA 韓国語(聴く)ⅡB 韓国語(聴く)ⅡC	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1		Reading ⅡA Reading ⅡB Reading ⅡC 韓国語(読む)ⅡA 韓国語(読む)ⅡB 韓国語(読む)ⅡC	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		Writing ⅡA Writing ⅡB Writing ⅡC 韓国語(書く)ⅡA 韓国語(書く)ⅡB 韓国語(書く)ⅡC	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		Speaking ⅡA Speaking ⅡB Speaking ⅡC 韓国語(話す)ⅡA 韓国語(話す)ⅡB 韓国語(話す)ⅡC	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	
英語・英米文学科専門科目	英語、および英語圏を中心とした欧米の文学・文化について、専門的な知識と思考力を深める。 DP4	専門基礎	Basic English Reading Ⅰ	1	2	必修	Basic English Reading Ⅱ	1	2	必修																								
		英語学関係科目	英語学概論A	2	2	必修	英語学概論B	2	2	必修	言語論 言語学A 言語学C 言語学E	2 2 2 2	2 2 2 2	選必	英語学史 言語学B 言語学D 言語学F	2 2 2 2	2 2 2 2	選必	英語学演習ⅠA	2	2	選必	英語学演習ⅠB	2	2	選必	英語学演習ⅡA	2	2	選必	英語学演習ⅡB	2	2	選必
		欧米文学・文化関係科目	欧米文学・文化概論A イギリス文学史A アメリカ文学史A	2 2 2	2 2 2	必修	欧米文学・文化概論B イギリス文学史B アメリカ文学史B	2 2 2	2 2 2	必修	イギリス語文講読 Shakespeare in Performance Comparative Literature Cultural Studies A Cultural Studies C Cultural Studies E	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	選択必修	アメリカ語文講読 Interpretation / Translation Cultural Studies B Cultural Studies D Cultural Studies F	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	必修	欧米文学・文化演習ⅠA 欧米文学・文化演習ⅠC 欧米文学・文化演習ⅠE	2 2 2	2 2 2	選必	欧米文学・文化演習ⅠB 欧米文学・文化演習ⅠD 欧米文学・文化演習ⅠF	2 2 2	2 2 2	選必	欧米文学・文化演習ⅡA 欧米文学・文化演習ⅡC 欧米文学・文化演習ⅡE	2 2 2	2 2 2	選必	欧米文学・文化演習ⅡB 欧米文学・文化演習ⅡD 欧米文学・文化演習ⅡF	2 2 2	2 2 2	選必
		卒業研究																									卒業論文	4	4	必修				
共通科目	語学科に共通した言語や文化への理解を深める科目。 語学科では特に英語運用能力に重点を置く。DP1,3	English communication	Oral Communication ⅠA Composition ⅠA	1 1	2 2	必修 必修	Oral Communication ⅠB Composition ⅠB	1 1	2 2	必修 必修	Oral Communication ⅡA Composition ⅡA	1 1	2 2	必修 必修	Oral Communication ⅡB Composition ⅡB	1 1	2 2	必修 必修	Oral Communication ⅢA Academic Writing A	1 1	2 2	必修 必修	Oral Communication ⅢB Academic Writing B	1 1	2 2	必修 必修	Advanced Discourse A Presentation Skills	1 1	2 2	必修 必修	Advanced Discourse B Business English	1 1	2 2	必修
		共通科目	言語・文学・文化の基礎 文学論 文化論 文学重学 書道A 海外研修ⅠA(事前準備/アメリカ) 後期の技術A(書く)	2 2 2 2 1 1 2	2 2 2 2 2 2 2	必修	書道B 海外研修ⅠB(事前準備/韓国) 後期の技術B(聴く/話す)	1 1 2	2 2 2		データ解析演習Ⅰ 海外研修ⅡA(アメリカ)	2 2	2 2		データ解析演習Ⅱ 海外研修ⅡB(アメリカ)	2 2	2 2		応用言語学 データベースと解析の技術 海外研修ⅡC(韓国)	2 2 2	2 2 2												
		日本語教育科目	日本語教育法ⅠA	2	2		日本語教育法ⅠB	2	2		日本語教育法ⅡA 日本語教育法ⅡC(演習)	2 2	2 2		日本語教育法ⅡB 日本語教育法ⅡD(演習/解習)	2 2	2 2																	

これは、以下のような英語・英米文学科固有の方針に基づいて定められている。

1) 専門的な学びを始める前段階として、言語・文学・文化に関する理論の概要と、高校までの学びを復習する Reading の科目を「専門基礎科目」として設定する。

2) 英語でのコミュニケーション能力向上のため、英語の使用を促進する必修科目として、4 年間にわたる「English Communication 科目」を設定する。

3) 英語への理解を促すよう、英語学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

4) 欧米の文学・文化に関して、これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう、文学・文化についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

5)両学科にまたがる専門性の高い知識および技術を学ぶ科目を、「共通科目」として設定する。

同様に、日本語・日本文学科固有の方針があるので、それに基づくカリキュラム・マップを示す。

文学部　日本語・日本文学科　　カリキュラムマップ

ディプロマポリシー	1.キリスト教主義に基づく聖学の精神を理解し、また自身の専門のみにとらわれない多様な知識や言語を学ぶことで、広い範囲にわたる理解力を持ち、日々、移り変わる新しい状況に対応できる、(文学部共通) 2.キャリアに関する基礎知識及び自身のキャリアに関連する知識を自ら付けることで、自ら目標を定め、その達成に向けて行動できる、(文学部共通)。 3.日本語及び日本の文学・文化について専門的に学びたと通して、論理的な思考を身につけ、そうした思考に基づく柔軟な言葉によって多様性のある社会に貢献できる。(日本語・日本文学科固有)

科目区分	目標	区分	1年 前期 科目名	単位	時間	必選	1年 後期 科目名	単位	時間	必選	2年 前期 科目名	単位	時間	必選	2年 後期 科目名	単位	時間	必選	3年 前期 科目名	単位	時間	必選	3年 後期 科目名	単位	時間	必選	4年 前期 科目名	単位	時間	必選	4年 後期 科目名	単位	時間	必選
基礎科目	文学の学びの基礎をとる。	基礎演習	基礎演習Ⅰ	2	2	必修	基礎演習Ⅱ	2	2	必修																								
一般教育科目	建学の精神への理解を深め、専門のみにとらわれない幅広い知識を身につけ、日々移り変わる新しい状況に対応できる能力を養う。DP1	キリスト教についての科目	キリスト教学Ⅰ	2	2	必修	キリスト教学応用 キリスト教文化	2 2	2 2						聖書と文学	2	2						キリスト教学Ⅱ	2	2	必修							
		人間・社会についての科目	哲学と倫理A 倫理学A 心と身体A 社会と人間A(生涯学習) 歴史と伝承A 現代の社会と文化A	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	選択必修	哲学と倫理B 倫理学B 心と身体B 社会と人間B(社会教育) 歴史と伝承B 現代の社会と文化B	2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2	選択必修	法と社会A(日本国憲法を含む) 経済学A	2 2	2 2	選必	法と社会B 経済学B	2 2	2 2	選必														
		自然についての科目	情報の科学A 生命の科学A 科学と現代A 科学と現代C 科学と現代D	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	必修選必	情報の科学B 生命の科学B 科学と現代B 情報の科学 ヘルスサイエンス論	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	選択必修																						
		地域についての科目	地域研究A	2	2	選必	地域研究B	2	2	選必																								
		教養演習									教養演習A 教養演習C 教養演習E 教養演習I 教養演習K 教養演習L 教養演習M 教養演習O 教養演習Q	2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2	選択必修	教養演習B 教養演習D 教養演習F 教養演習G 教養演習H 教養演習J 教養演習N 教養演習P	2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2	選択必修													
外国語科目	外国語によるコミュニケーション能力と知識の幅広・伝達力を培う。DP1	英語	英語ⅠA 英語ⅠB	1 1	2 2	必修 必修	英語ⅠC 英語ⅠD	1 1	2 2	必修 必修	英語ⅡA	1	2	必修	英語ⅡB	1	2	必修																
		第2外国語	ドイツ語A ドイツ語B フランス語A フランス語B 中国語A 中国語B 韓国語A 韓国語B	1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2	選必 選必 選必	ドイツ語C ドイツ語D フランス語C フランス語D 中国語C 中国語D 韓国語C 韓国語D	1 1 1 1 1 1 1 1	2 2 2 2 2 2 2 2	選必 選必 選必 選必 選必																								
保健体育科目	健康や運動についての知識や能力を養う。	講義	スポーツ科学講義	2	2																													
		実技	スポーツ科学実技A スポーツ科学実技B スポーツ科学実技C	1 1 1	2 2 2		スポーツ科学実技D スポーツ科学実技E スポーツ科学実技F	1 1 1	2 2 2																								
キャリアサポート・単位互換科目	キャリアに関する知識を身につけ、将来の目標達成に向け行動できるための。DP2	キャリアサポート科目	キャリアデザインA	1	1	必修	キャリアデザインB	2	2		キャリアデザインC 教職教養A 教職教養C 常識日本語A 小論文演習 実践英語A(TOEIC) 実践英語C(TOEIC) 基礎数学A(SPI) 基礎数学B(SPI) 選択教養A 選択教養B 選択教養C 選択教養D	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		キャリアデザインD 教職教養B 教職教養D 実践英語B(TOEIC) 実践英語D(TOEIC) 基礎数学C(数学検定) 選択教養E 選択教養F 選択教養G 選択教養H	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		キャリアデザインE	2	2	キャリアデザインF	2	2							
	国内外の大学との協力の下、学ぶ力の可能性を広げる。 DP1	単位互換科目	Listening ⅠA Listening ⅠB Listening ⅠC 韓国語(聴く)ⅠA 韓国語(聴く)ⅠB 韓国語(聴く)ⅠC	2 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1		Reading ⅠA Reading ⅠB Reading ⅠC 韓国語(読む)ⅠA 韓国語(読む)ⅠB 韓国語(読む)ⅠC	2 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1		Writing ⅠA Writing ⅠB Writing ⅠC 韓国語(書く)ⅠA 韓国語(書く)ⅠB 韓国語(書く)ⅠC	2 1 1 2 1 1	2 1 1 2 1 1		Speaking ⅠA Speaking ⅠB Speaking ⅠC 韓国語(話す)ⅠA 韓国語(話す)ⅠB 韓国語(話す)ⅠC	2 1 1 2 1 1	2 1 1 2 1 1		Listening ⅡA Listening ⅡB Listening ⅡC 韓国語(聴く)ⅡA 韓国語(聴く)ⅡB 韓国語(聴く)ⅡC	2 1 1 2 1 1	2 1 1 2 1 1		Reading ⅡA Reading ⅡB Reading ⅡC 韓国語(読む)ⅡA 韓国語(読む)ⅡB 韓国語(読む)ⅡC	2 1 1 2 1 1	2 1 1 2 1 1		Writing ⅡA Writing ⅡB Writing ⅡC 韓国語(書く)ⅡA 韓国語(書く)ⅡB 韓国語(書く)ⅡC	2 1 1 2 1 1	2 1 1 2 1 1		Speaking ⅡA Speaking ⅡB Speaking ⅡC 韓国語(話す)ⅡA 韓国語(話す)ⅡB 韓国語(話す)ⅡC	2 1 1 2 1 1	2 1 1 2 1 1												
日本語・日本文学科専門科目	日本語と日本及び関連した地域の文学・文化について、専門的な知識を深める。 DP5	専門基礎	古文の基礎	1	2	必修	漢文の基礎	1	2	必修																								
		日本語学関係科目	日本語学概論A 日本語音声学	2 2	2 2	必修	日本語学概論B	2	2	必修	日本語文法論A 日本語史A 現代日本語学入門	2 2 2	2 2 2	必修	日本語文法論B 日本語史B 古典日本語学入門	2 2 2	2 2 2	必修	日本語学演習ⅠA 日本語学演習ⅠC	2 2	2 2	選必	日本語学演習ⅠB 日本語学演習ⅠD	2 2	2 2	選必	日本語学演習ⅡA 日本語学演習ⅡC	2 2	2 2	選必	日本語学演習ⅡB 日本語学演習ⅡD	2 2	2 2	選必
		日本文学関係科目	日本文学概論A 日本古典文学史 日本近代現代文学史	2 2 2	2 2 2	必修	日本文学概論B	2	2	必修	古代文学 中世文学 近代文学	2 2 2	2 2 2	選必 選必	中古文学 近世文学 現代文学	2 2 2	2 2 2	選必 選必 選必	地域文学研究 古典文学演習ⅠA 古典文学演習ⅠC 近代現代文学演習ⅠA	2 2 2 2	2 2 2 2	選必 選必	古典文学演習ⅠB 古典文学演習ⅠD 近代現代文学演習ⅠB	2 2 2	2 2 2	選必 選必	古典文学演習ⅡA 古典文学演習ⅡC 近代現代文学演習ⅡA	2 2 2	2 2 2	選必 選必	古典文学演習ⅡB 古典文学演習ⅡD 近代現代文学演習ⅡB	2 2 2	2 2 2	選必 選必
		日本文化関係科目	日本文化概論A 日本の歴史A	2 2	2 2	必修	日本文化概論B 日本の歴史B	2 2	2 2	必修	日本マンガの歴史	2	2	選必	現代日本マンガ論 日本の神信仰等 日本のサブカルチャー 日本の供俗芸能 中国文学講読B	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	選必	日本文化演習ⅠA 日本文化研究A	2 2	2 2	選必	日本文化演習ⅠB 日本文化研究B	2 2	2 2	選必	日本文化演習ⅡA	2	2	選必	日本文化演習ⅡB	2	2	選必
		中国文学関係科目	中国文学概論(中国文学史を含む)	2	2	必修					中国文学講読A	2	2																				
		卒業研究																									卒業論文	4	4	必修				
共通科目	両学科に共通した言語や文化への理解を深める科目。DP1,2,5	共通科目	言語・文学・文化の基礎 民俗学 考古学 古文書学 書道A 海外研修Ⅰ A(事前準備・アメリカ) 表現の技術A(書く) Oral Communication ⅠA Composition ⅠA 日本語教育法ⅠA	2 2 2 2 1 1 2 1 1 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	必修	書道B 海外研修Ⅰ B(事前準備・神戸) 表現の技術B(聞く話す) Oral Communication ⅠB Composition ⅠB 日本語教育法ⅠB	1 1 2 1 1 2	2 2 2 2 2 2		データ解析演習Ⅰ 海外研修ⅡA(アメリカ) Oral Communication ⅡA Composition ⅡA 日本語教育法ⅡA 日本語教育法Ⅱ C(演習)	2 2 1 1 2 2	2 2 2 2 2 2		古代言語学 データベースと解析の技術 データ解析演習Ⅱ 海外研修ⅡB(アメリカ) 海外研修Ⅱ C(韓国) Oral Communication ⅡB Composition ⅡB 日本語教育法ⅡB 日本語教育法Ⅱ D(演習・実習)	2 2 2 2 2 1 1 2 2	2 2 2 2 2 2 2 2 2		Oral Communication ⅡA Academic Writing A	1 1	2 2	Oral Communication ⅡB Academic Writing B	1 1	2 2		Advanced Discourse A Presentation Skills	1 1	2 2		Advanced Discourse B Business English	1 1	2 2	

これをディプロ・マポリシー実現のためのカリキュラム・ポリシーという観点から概観すると、以下のとおりである。

1)専門的な学びを始める前段階として、言語・文学・文化に関する理論の概要と、高校までの学びを復習する古文および漢文の科目を「専門基礎科目」として設定する。

2) 日本語への理解を促すよう、日本語学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

3) 日本の文学に関して、これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう、文学についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

4) 日本および日本に影響を与えた国の文化に関して、これを俯瞰すると同時に多様な視点から学びを深めることができるよう、文化についての系統だった科目を「専門教育科目」として設定する。

5)両学科にまたがる専門性の高い知識および技術を学ぶ科目を、「共通科目」として設定する。

2-3 点検・評価

2-3-1　カリキュラムの見直しについて

数年に一度、文学部ではカリキュラム改正が行われてきた。現行のカリキュラムはすでに 6 年が経過した（2023 年度時点）。当然、改正のための準備が整っていなくてはならないが、先に述べた「文学部改革検討委員会」による「１学科３コース」議論が長引いたため、まだ青写真すら描けていない。

しかし、諸学の新動向、社会ニーズの変化等によるカリキュラムの改訂は必要であり、待ったなしの状態である。また、多くはない基幹教員の授業科目担当コマ数を削減し、研究時間を確保することは喫緊の課題である。

2-3-2　コース制について

将来的にコース制を導入することは、「文学部改革検討委員会」による 2023 年秋の「最終答申」によって示された。しかし、2024 年 4 月から新たに立ち上げられた「文学部改革検討委員会」によるより具体的な検討の結果、さしあたり着手すべきは新カリキュラムの策定であることが判明した。この判断の背景は以下のとおり。

① 2024 年度、大学収容定員充足率が 73%となり、「修学支援新制度」対象校となるための条件の一つを達成できなかったこと。3 年連続未達成だと対象校から除外される。

② １学科３コースへと改組した場合、新入生受け入れは最速でも 2028 年度からとなり、現在の入学定員数を維持すると仮定して、収容定員充足率低下問題に対処できない。

③ 魅力的な新カリキュラムのもと、新入生受け入れを 2026 年度から行うことができ、学部募集定員の 80%以上の獲得を目指す体制をつくる。

2-3-3　学修行動・学修成果について

2018 カリキュラムの成立後も、途絶えることなく検証は行われている。それらの検証を通して幾つかの課題が見出され、かつ改善されてきた。狭義の「カリキュラム」には当たらないものを含めて次のとおりである。

（１）GPA 利用と CAP 制

①GPA 利用の推進により、成績不振者に対する個別指導の徹底。

②CAP 制の実施により、1 年間に登録できる単位数は 48 単位（資格関係科目含まず）を上限とする。しかし、前年度 GPA3.0 以上の成績上位者については、CAP 制を緩和し、年間 54 単位まで登録可能とする。この「緩和」制度を利用した学生数は以下のとおりである。

	英語・英米文学科	日本語・日本文学科
2022 年度入学生	0 (4)	3(11)
2023 年度入学生	0 (6)	0 (12)

( )は GPA3.0 以上の対象者数

データを見る限り、「緩和」制度の魅力を感じている成績上位の学生は少ないといえるだろう。

（2）「授業の予習」「授業の復習」に関しては、学生の学修が総じて不足していると見られる。カリキュラムだけに留まることではないが、後述するように「学習行動・学習成果アンケート」を分析すると、自発的な学修の意欲が低く見える場合があることが特に問題である。

（3）高度な領域までの「体系的」教育という観点から言えば、卒業論文以外に、最終的な学力（卒業時の達成度）を厳しく測る手立てがないことが問題である。現在、他大学では（法政大学、慶應大学などに）「進級再試験」「卒業試験」等を設けている例があるが、本学部の制度として可能かどうか検討する必要がある。

先述したとおり、この現行 2018 カリキュラムは、順調に年次進行して 2021 年度末で一応の完成年次を迎えた。現状での成果を判断するための最新のものとして 2023 年度末（2024 年 3 月）の「卒業時アンケート」がある。これにより文学部カリキュラムについての評価の一端を知ることができる。要約して言えば、「あなたの勉学や学生生活にとって、良かったと思うものは何ですか」に対して、「アルバイト」や「部活・サークル活動」を大きく引き離して、第 1 位は「授業科目」約 30%となっている。

2-4　まとめと課題

2-4-1　評価

①「2018 カリキュラム」については、他大学に比べても優れた点が多いと自負しており、当然ながら目下のところ、重大な問題点は、発見されていない。例えば、この規模の大学で、日本文学の各年代と日本文化の広い領域を講義・演習に持つ大学は、全国を見回しても少ない。

とはいえ、 原構想から数年を経ているので、時代とのマッチングを考えた場合、微妙にずれてきているところはある。例えば、日本の英語・英米文学系の学部・学科で、近年、グローバルスタディーズ学部・学科に変更したりしているケースなどについては参考とすべき点があるかもしれない。

②文学部のカリキュラムとして、英語・英米文学科、日本語・日本文学科全てのジャンルと時代を網羅しているとは、なお言い切れない。これは基幹教員あるいは非常勤講師の数を劇的に増加させられない財務問題に一因がある。

②文化関係科目として映画やマンガについての講義があり、学問の範囲としては広く網羅しているが、講義・演習の選択肢が量的に十分とは言えない。これはもちろん教員数などの問題とも関係している。

③学部全体として文化関係の科目が人気。日本語・日本文学科について言えば、特に最近の傾向としてマンガとアニメに関するものが多い。世界的に日本のマンガ・アニメ（Manga,Anime）がヒットしている情勢に鑑みても、この分野は受験生を惹きつける重要な要素になり、いわゆるキラーコンテンツであると言える。また、文学部からは、過去１０年間にプロフェッショナルなライトノベル作家を少なくとも２名、またいわゆる「純文学」系作家を１名、それぞれ輩出しており、この点は地域の高校などにも評価されているところである。

④ 英語・英米文学科では、English Camp や海外研修の充実などが挙げられる。
英語・英米文学科では、長年、英語力の向上と国際的な感覚の醸成を掲げてきた。確かに海外研修・留学を目指して入学する学生にとっては、魅力的な学科であることは間違いない。しかし、他大学英語コミュニケーション系学科との比較で特筆すべき際立った特徴があるかといえば、そうとはいえないだろう。下の入学者数をみれば明らかである。

入学者数推移（両学科募集定員 50 名）

年度	英文	日文	文学部合計
2021 年度	33	49	82
2022 年度	35	46	81
2023 年度	26	47	73

数字は転入、編入含む

⑤ 数学、物理学、化学、生物学などの、いわゆる理系科目の展開が少なすぎる。
すでに入試科目に「数学」を必須とする文系大学・学部も増えてきており、実際問題として卒業時に IT 企業に就職する学生もいる。

⑥ 資格関係科目は、さまざまな学生のニーズによく応えている。しかし、地域の実情（例えば、学校図書館司書教諭の採用数が低調）とずれてきている面もある。

2-4-２　課題と改善

上記入学者数の推移を見れば、英語・英米文学科の低調と日本語・日本文学科の堅調という傾向が見出せる。

日本語・日本文学科にしても磐石というわけでは全くないが、2021 年度はほぼ定員を満たし、全学年を通算すると収容定員に近づいているところである。これに対し、英語・英米文学科では全体としても定員の６～７割程度、極端な場合には定員の５割近くまで落ち込んでいる。

ただし、現時点で、文学部が地域のニーズと微妙にズレを生じつつある側面があることに注意しなければならない。地域ニーズについて、現在のカリキュラムの策定時には、以下のように捉えられていた。

1. 第一志望として本学を選ぶ県内出身者を受け入れ、教育し、卒業生の７割程度を県内就職させているのが現状である。

２．入学の動機は、「自宅から通える」が最も多く、併願されている大学・学部も弘前大学の人文社会学部または教育学部であり、地域の大学という位置づけは重要である。

３．また、英語・英米文学科は「海外研修・留学プログラムが充実している」こと、日本語・日本文学科は、「魅力ある授業がある」ことが志望動機にあげられており、言語・文学・文化３領域の深い学びと海外研修・留学プログラムの充実といった特色は、地域に一定程度受け入れられているものと思われる。

各種の資格関係科目については、さまざまな学生のニーズによく応えている。しかし、地域の実情とずれてきている面もある。例えば、「学校図書館司書教諭」の資格は、北東北地域において各学校への配置がなかなか進まない。（１１学級以下の中学校における司書教諭発令率；青森県 25.5%、岩手県 1.0%、秋田県 8.6%。文科省「令和２年度「学校園書館の現状に関する調査」結果について」による）その結果、少なくともこの地域では、持っていたとしても就職や仕事に直結しない「使えない資格」となりかかっており、本学における取得者も平均すると年間数名程度に過ぎない。

学芸員資格も、現在、就職先が限られてきているのが実情である。

また、社会教育主事任用資格 は、2021 年度から社会教育士へと変わり、国家資格となった。国家資格となってグレードが上がった面があるが、公務員の「任用資格」という名称を失ったことによって、公務員との制度的連携が途切れた形になり、公務員志望の高校生・本学の現役学生にとっては、魅力的なものと言い切れないようである。

以下、2023 年度文学部卒業生（学部全体 87 名）の資格取得者数である。

	英語・英米文学科	日本語・日本文学科
教員免許	14	4
学校図書館司書教諭	1	1
学芸員	0	13
社会教育士	5	8

日本語教師	4	8

人事を含む問題点
本来的には「教員組織」の問題であるが、カリキュラムとの関連が大きいため、概略をここに記す。
①英語・英米文学科、日本語・日本文学科ともに、歴史学の基幹教員がいない。これは 文学部としては重大な問題であると考える。現実の問題として、本学部の場合、歴史学に関する科目はすべて非常勤講師に頼っているのが現状である。

②日本語・日本文学科に、サブカルチャーを含む現代日本文化論を専門領域とする基幹教員が足りない。文化領域が学生や高校生に人気なだけに、人員補充が強く望まれる。

2-4-3 2025 年度の教育課程編成について
2025 年度の教育課程に関する大きな変更点はないが、国家資格となった「登録日本語教員」科目に若干の変更が生じる予定である。つまり、「日本語教育法ⅡA」「日本語教育法ⅡB」をそれぞれ、「異文化コミュニケーション論」「学習心理」へ切り替える。
文学部は 2026 年度に現在の教育課程を刷新する「2026 カリキュラム」を開始する予定である。その詳細な内容は、改革検討委員会にて目下検討中だが、以下の「骨太の方針」は委員間で共有されている。

① 専任教員の持ちコマ数（学部科目最低ライン）を現状の 7.0 から 6.0 へ引き下げる。
② 現カリキュラムにある類似した科目同士を統廃合して、カリキュラムをスリム化する。
③ 2024 年秋までに新カリキュラムの原案を作成し、両科会議、教授会を経て年内に最終決定する。

３．学修成果に関する点検・評価（要約版）

学修成果の測定・評価については、直接的評価と間接的評価がある。
１．直接的評価；卒業率（学位授与率）；2023 年度
・英語・英米文学科 90.5%、日本語・日本文学科 87.5%
資格免許等取得状況

本学部で取得できる資格免許の取得状況は、2023 年度実績で以下のとおりである。

・教員免許；18 名、学芸員；13 名、社会教育士；13 名、日本語教員；12 名

卒業率については、現時点で日本の大学全体の卒業率が 90%程度と推計されているものとほぼ等しく、学位授与が順当に行われているといえよう。資格免許取得状況については、伝統的な教員免許（英語、国語）の取得者が最も多いが、学芸員、社会教育士、日本語教師の資格取得者も一定程度ある。

取得資格を生かした 2023 年度就職例としては、青森県公立学校教諭 2 名、私立高等学校教諭 1 名、青森県臨時講師 4 名、日本語教員 1 名という結果であった。

２．間接的評価

就職率 202３年度

・英語・英米文学科 100%、日本語・日本文学科 100%

（就職率：就職希望者に対する就職者数の割合）

なお、厚生労働省が 2024 年 4 月 1 日時点で発表した四大卒の就職率は 98.1%である。

アンケート調査―『2023（令和 5）年度「学修行動・学修成果アンケート調査」実施結果報告書』

授業出席率、目的の理解度、課題への取り組み、授業理解度、授業への意欲のいずれにおいても、文学部は肯定的な評価が 90 数%の高率であり、学修成果が上がっていることが見て取れる。特筆すべきは、「授業の内容を十分に理解できたか」という趣旨の設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の２つを足して肯定的な評価が 97.4%という高率であることで、文学部の教育システムが評価されたものと考えられる。

反面、外国語の運用能力、職業上役に立つ知識・技術などでは否定的評価も散見される。

【課題と改善】

検証をとおして見出された課題は次のとおりである。

１）学生の学修が総じて不足している。特に、自発的な学修の意欲が低く見えるのは問題である。また、このことから、今後の個別指導のあり方も改善しなければならない。

２）英語・英米文学科の「興味・関心のある授業」がさほど多くないとの結果は、次のカリキュラム編成時には改善しなければならない項目の一つである。

３）卒業論文以外に、卒業時の学力（達成度）を測定する手法が必要である。今後、検討したい。

３．学修成果に関する点検・評価　（詳細版）

3-1　ディプロマ・ポリシー

一般的に学士課程教育における学修の成果は、学位取得によって証明される。したがって、学修成果に関する点検・評価は、一義的にはディプロマ・ポリシーによらなければならない。また、その到達度の測定・評価については、アセスメント・ポリシーによらなければならない。これは全ての大学が守るべきいわば鉄則である。本学部においても、その鉄則は当然に守られている。

文学部のディプロマ・ポリシーは、以下のとおりである。

基礎科目 4 単位、一般教育科目 28 単位、外国語・保健体育 10 単位、専門教育科目 72 単位、キャリアサポート科目・単位互換科目 14 単位の計 128 単位を修得し、次に掲げる能力を身につけた者に学位を授与します。

英語・英米文学科および日本語・日本文学科に共通する要件

1.キリスト教主義に基づく建学の精神を理解し、また自身の専門のみにとらわれない多様な知識や言語を学ぶことで、広い範囲にわたる理解力を持ち、日々移り変わる新しい状況に対応できる。

2.キャリアに関する基礎的知識および自身のキャリアに関連する知識を身につけることで、自ら目標を定め、その達成に向けて行動できる。

英語・英米文学科固有の要件

3.英語でのコミュニケーションを行うための基礎的な知識や技術を学ぶことにより、英語を用いた学びや多様性のある社会へ貢献ができる。

4.英語および欧米の文学・文化について専門的に学ぶことを通して、論理的な思考を身につけ、そうした思考に基づく明快な言葉によって多様性のある社会に貢献ができる。

日本語・日本文学科固有の要件

5.日本語および日本 の文学・文化について専門的に学ぶことを通して、論理的な思考を身につけ、そうした思考に基づく明快な言葉によって多様性のある社会に貢献ができる。

また、学修成果を測るための、文学部のアセスメント・ポリシーは、以下のとおりである。

進級率、退学率、成績評価、GPA、単位修得状況、学位取得率のほか、文学部で取得できる資格の取得状況によっても達成度を測定する。卒業時においては、英語・英米文学科、日本語・日本文学科それぞれの卒業所要科目の学修到達状況、及び卒業論文(必修)の成果によって、ディプロマ・ポリシーで求める能力の到達状況を評価する。卒業認

定基準としては、2018 年度以降の入学生は「基礎科目」4 単位、「一般教育科目」28 単位、「外国語科目・保健体育科目」10 単位、「キャリアサポート科目・単位互換科目」14 単位、「専門教育科目」72 単位、計 128 単位の修得を卒業所要単位数とする。2017 年度 以前の入学生は「基礎科目」4 単位、「一般教育科目」28 単位、「外国語科目・保健体育科目」10 単位、「自由選択科目」14 単位、「専門教育科目」72 単位、計 128 単位の修得を卒業所要単位数とする。

また、進路(進学、就職)の選択、「卒業時アンケート調査」、「学修行動・学修成果アンケート調査」により、学部教育の達成度を多角的に評価する。

3-2　学修成果の測定およびその検証

学修成果の測定・評価については、アセスメント・ポリシーにおける、直接的評価と間接的評価がある。

3-2-1 直接的評価

3-2-1-1 卒業率（学位授与率）；2023 年度

・英語・英米文学科 90.5%

・日本語・日本文学科 87.5%

3-2-1-2 資格免許等取得状況

本学部で取得できる資格免許の取得状況は、2023 年度実績で以下のとおりである。

・教員免許；18 名

・学芸員；13 名

・社会教育士；13 名

・日本語教員；12 名

以上について概観すると、まず卒業率については、現時点で日本の大学全体の卒業率が90%程度と推計されている（AERA DOT 2019/4）ものとほぼ等しい。各科目における単位認定が正当であるとすれば、文学部の場合、ディプロマ・ポリシーに従った学位授与が順当に行われているといえよう。

資格免許取得状況については、伝統的な教員免許（英語、国語）の取得者が最も多いが、学芸員、社会教育士、日本語教師の資格取得者も一定程度いる。

取得資格を生かした 2023 年度就職例としては、青森県公立学校教諭 2 名、私立高等学校教諭 1 名、青森県臨時講師 4 名、日本語教員 1 名という結果であった。

3-2-2 間接的評価

次に、間接的な評価として、就職率、及び学生に関するアンケート調査の結果から見えてくる課題について述べる。

3-2-2-1 就職率 2023 年度

・英語・英米文学科 100%、

・日本語・日本文学科 100%

なお、厚生労働省が 2024 年 4 月 1 日時点で発表した四大卒の就職率は 98.1%である。

3-2-2-2 各種アンケート調査―「卒業時アンケート」「学修行動・学修成果アンケート調査」

「卒業時アンケート」「学修行動・学修成果アンケート調査」を実施した結果から、注目すべき事項について述べる。

まずこの「卒業時アンケート」により、2023 年度卒業生の学修成果について述べる。

このアンケートによれば、授業出席率、目的の理解度、課題への取り組み、授業理解度、授業への意欲のいずれにおいても、文学部は肯定的な評価（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が 90 数%の高率であり、学修成果が上がっていることが見て取れる。

特筆すべきは、「授業の内容を十分に理解できたか」という趣旨の設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の 2 つを足して肯定的な評価が 97.4%という高率であることで、文学部の教育システムが評価されたものと考えられる。

これに対して、英語・英米文学科で低評価だったのは、教養について「どちらかといえば身に付いていない」という回答が 5.7%あった項目である。

また、日本語・日本文学科で目立った低評価項目は、外国語の運用能力に対して「どちらかといえば身に付いていない」という回答が 16.3%、職業上役に立つ知識・技術について「どちらかといえば身に付いていない」という回答が 4.7%、協働して進める姿勢に対して「どちらかといえば身に付いていない」という回答が 9.3%である。

学部での学びが進路選択に役に立ったか、という問に対し、「どちらかといえば役に立たなかった」の回答が英語・英米文学科で 5.7%、日本語・日本文学科で 9.3%だったことは、看護学部と異なり、特定の職業に直結しない学部の特性によるものだろう。

次に、2023 年度版「学修行動・学修成果アンケート調査」の結果により、文学部学生の学修行動に関する主要な部分について述べる。

「学修行動・学修成果アンケート」文学部の分析

１週間の登校日数；１週間の登校日数は５～6 日が最も多いが、３～4 日という学生が英語・英米文学科で 25.4%あり、他学科に比して登校日数が少ない。

授業出席割合；授業出席の割合について、8 割以上が大学平均で 81.3%なのに対して、英語・英米文学科は 57.7%、日本語・日本文学科 80.6%という数字になっている。特に英語・英米文学科は、これとおそらく連動して「興味・関心のある授業」が 20～39%と回答した者が全学科で最も高い 19.7%となっている。魅力ある授業の構築が急務である。

授業欠席割合；理由なく欠席した割合は 20%未満とするものが最も多いが、看護学部と比較すると勤勉性の点で劣っている。とりわけ、英語・英米文学科はだいぶ劣っている。

授業への興味・関心度；「興味・関心のある授業」があるとする割合についてみると、60%以上とするものが 42.1%である。この数字は、社会福祉学部と看護学部より 10 数%程度低い。

授業の難易度；上記に関し、「授業の難易度」について見ると、「ふつう」が 63.9%ある。これは他学部よりも高い数値であり、授業が難しすぎてついていけないというわけではないことを示している。他方、「かなり難しい」と回答した者が文学部全体で 2.75%いて、これは看護学部に次いで高い数値である。

授業取り組み度；「積極的な取り組み」について、「まったく取り組んでいない」が他学部には数%いるのにかかわらず、文学部 0 %であったことは、特筆に値する。実際、「よく取り組んだ」の割合が高い。

授業の予習；「自発的予習」では、46.9%が 1 週間で 90 分未満というのは、明らかに不足している。「やっていない」が英語・英米文学科 31.0%と日本語・日本文学科 12.2%で、とりわけ前者は大学平均（18.2%）よりも高い数値になっている。

授業の復習；復習では、51.2%程度が 90 分未満で最も多く、誇れる数値ではない。「やっていない」は英語・英米文学科 25.4%、日本語・日本文学科 7.1%であり、とりわけ前者は全学科のうち最も高い数値となっている。改めて、個別指導が必要な理由がここにある。

授業に関わる発表、レポート、課題への取り組み時間；「レポート・課題に費やした時間」では、週当たり「３時間以上」が大学平均約 50%のところ、英語・英米文学科はやや低く、日本語・日本文学科は大学平均をだいぶ上回る数値となっている。

授業以外の学修行動；「授業以外の学修行動」については、読書量が週当たり２冊以下が51.9%と最も多い。しかし、英語・英米文学科の「読まない」が 43.7%、日本語・日本文学科 21.4%となっている。ところが、他学部に比べたら、この数値でも 4 学科中下から１，２番目であり「最悪ではない」ということだろう。

新聞、読んでいるもの、インターネット；新聞雑誌等のオールドメディアについては、新聞を「読まない」が 56.7%、雑誌等を「読まない」が 35.8%を占めるのに対し、一日に一度もインターネットに触れない者は 0.7%と少なく、新旧のメディアで際立った対比をみせる。

日本語・日本文学科の「定期的に読んでいるものは」への回答で「マンガ、雑誌」にマークした者が 69.4%と他学科を大きく引き離して高い数値になっている。これは、学科の学修内容の一部と結びついているためか。

ゲーム；ゲームについては、「やっていない」学生が英語・英米文学科では 35.2%いるのに対し、日本語・日本文学科では 17.3%と、際立った対比を見せる。後者は 4 学科の中で最も熱心なユーザーが多いのだろう。

図書館利用率；図書館の利用率は、文学部としては低い。特に、全く利用していない層が16.8%である。これは大学平均をやや下回る数値である。

以上を総合して、文学部の場合、インターネットやゲームなど現代的メディアとの親和性が高いが、新聞・雑誌・図書などのオールドメディアとは距離が開いている。最大の問題は、予習復習共に時間的に不足であることで、中でも特に自発的な学修の時間が少なく、自ら問題を発見して積極的に学び、自ら解決していくという大学生にふさわしい姿勢が身についているとは言い切れない。

3-3 まとめと課題

3-3- 1　評価

近年の文学部就職率は 100%か、ほぼ 100%で推移している。これは世にいう若年労働者の「人手不足」のおかげとも考えられるが、しかし近隣他大学がこれほどの数字を毎年度はじき出していないことを考えれば、やはり本学部の就職支援体制がよく機能しているからと考えざるを得ない。

具体的には、キャリアサポート科目に見られるような就職支援に直結した科目群をカリキュラムが具えていること、また少人数での授業を不断に行い、個々の学生に対して有効な助言を与えられること、もちろん教員とキャリアセンター職員との連携が上手くいっていること等が考えられる。

在学中に取得できる資格を生かした就職も、毎年度ある程度の成果をあげており、これが文学部の魅力の一つになっている。とりわけ教職は学部設置以来、多数の卒業生がその職に就いており、地域からの評価も高い。

教員志望、公務員志望あるいは一般企業志望と学生のキャリアに対する考えは多様であり、この傾向は今後も続くと思われる。だとすれば、これまで以上に、少人数教育、個別指導の質を教員側が高めていかなければならない。

3-3- 2 課題と改善

以上の検証をとおして見出された課題は次のとおりである。

1）学生の学修が総じて不足している。特に、自発的な学修の意欲が低く見えるのは問題である。また、このことから、今後の個別指導のあり方も改善しなければならない。

2）英語・英米文学科の「興味・関心のある授業」がさほど多くないとの結果は、次のカリキュラム編成時には改善しなければならない項目の一つである。

3）卒業論文以外に、卒業時の学力（達成度）を測定する手法が必要である。今後、検討したい。

参考資料

資料①「文学部　教育に関する点検・評価報告書 2022 年度版」

資料②2023 年度「学生便覧」

資料③2023 年度「卒業時アンケート調査」実施結果報告書

資料④2023 年度「学修行動・学修成果アンケート調査」実施結果報告書